（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和5年度　学校自己評価システムシート（県立豊岡高等学校）　W10

目指す学校像	地域に根ざし豊かな人間性を培う進学校

重点目標	
	1　学力向上に向け、授業改善に取り組む
	2　個々の生徒の進路希望に応じた指導を充実させる
	3　基本的な生活習慣の改善を図るとともに生徒の自律性を養う
	4　生徒会行事・部活動を充実させ、主体的な学校生活に取り組ませる
	5　開かれた学校づくりに取り組む

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
生徒　　名
事務局（教職員）　　名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日　現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	生徒が授業に臨む姿勢は、概ね良好であるが、進路実現に向けて日々学習に取り組んでいる生徒がいる一方、その取り組みが不十分である生徒も見受けられる。進路実現に向けたさらなる学力向上のため、授業、豊高ゼミ、進学講習、家庭学習などにおける、「主体的・対話的で深い学び」の定着と、「豊高手帳」の活用を通した、自己管理、自学自習の確立が課題である。	授業の予習復習を含めた家庭学習の定着や、時間の有効活用を促す。	①生徒の積極的な学習への取り組みを一層促し、学力の向上を図り、それが進路実現につながるように、教材研究、授業改善、研修等を行い、指導力を向上させる。 ②「豊高手帳」の積極的な活用による自己管理を通して、家庭学習の時間を確保し、定着を図る。 ③授業３ヶ条が学校(生活)に定着するよう、生徒に呼びかける。	①生徒の積極的な取り組みを促すような指導力向上が見られたか。 ②「豊高手帳」を活用し、時間管理・自己管理ができたか。 ③授業３ヶ条の励行を生徒に呼びかけたか。				
2	生徒の進路希望は多岐にわたる。また、受験方法も多種多様になった。令和7年度からは新課程での入試が始まる。生徒の進路実現に向けた進路指導を行うためには、的確な進路情報の収集と集約・発信・共有が必要である。大学・専門学校・就職など生徒の様々な進路希望に対応した、きめ細やかな進路指導の充実が課題である。	生徒の進路実現に向け、進路希望に合わせた継続的な指導を行うとともに、教職員の指導力の向上を図る。	①生徒に対して適切なガイダンスや進路行事を実施するとともに、保護者に対しても説明会を行う。さらに職員向けの研修会も実施し、情報を共有する。 ②豊高ゼミやその他の進学講習など計画的に実施する。 ③研修会・研究会への参加を通して、進路情報等を収集・整理し、全職員に情報を共有し、進路指導に生かす。	①要点を絞った効果的なガイダンスや進路行事、保護者説明会、職員研修が実施できたか。 ②進学講習等が計画的に実施し、生徒への意識付けができたか。 ③各種研修会・研究会により進路情報を収集し、指導に生かすことができたか。				
3	学校全体として、生徒の様子や態度は落ち着きがあるが、教員の目の行き届かない場面における規範意識が低い生徒もいる。 今後の課題としては、教員の指示や目がなくても生徒自ら律する力を様々な面で養うことである。	生徒の状況を常に把握し、現状を踏まえた上で適切な指導を行う。また、教職員全体の共通理解を深め、継続的な指導を実践する。生徒が安心して学校生活を送れるよう環境を整備する。	①朝の登校指導や様々な場面において、生徒の様子をしっかり観察し情報の収集に努め、実態を正確に把握する。 ②スクールカウンセラーや養護教諭、担任との情報共有に努め、適切で細やかな指導を行う。 ③全職員で指導方針を共有し、共通理解のもと指導を実践する	①情報収集を行い、現状を的確に認識できたか。 ②適切な情報交換ができ、生徒への指導がうまくできたか。 ③個々の生徒に応じた対応を行い、自律を促す支援が行えたか。				
4	まずは、新型コロナウィルス感染症の５類への移行に伴い、これまで制限されていたものが緩和される見通しとなった。徐々にコロナ前に戻していかなければならないが、３年間のブランクを埋め、活発で主体的な生徒会活動を実施していくにはどうすべきかということが課題である。この課題を克服していく過程で、生徒会役員が自ら学校生活上の課題を見出し、その改善に向けて協働して努力できるようにすることが課題である。	豊高祭等、生徒会行事を行っていくうえで、制限緩和に適応した新たな実施方法を模索していく。そして、生徒会役員が学校生活上の課題を自ら見出し、学校生活の改善・向上を目指していくように促す。	①制限緩和に適応し生徒会行事の実施方法については、生徒の要望を吸い上げ、管理職・保健環境部と協議をしながら、生徒が最も達成感を得られるように進めていく。 ②生徒会役員が、生徒の要望を吸い上げていくなかで学校生活上の課題を見出し、その改善に向けて努力し、「自分たちの力で学校がよりよくなった」という実感をもたせることができるようにする。	①制限緩和に適応した豊高祭・球技大会等、生徒会行事を実施できたか。 ②生徒会役員が自ら学校生活上の諸問題から課題を見出し、学校生活の改善・向上をめざすことができたか。				
5	新型コロナウィルス感染症状況下で、学校説明会の実施や学校紹介ビデオなどのＨＰへの掲載を行い、可能な限りの広報活動を行い、安定的な志願倍率を保つことができた。また、豊岡高校に対する中学生や地域社会からの評価も高まった。今後は、安定した生徒募集と、コロナ禍からの原状回復を同時進行させつつ、全職員による広報活動体制を維持することが課題である。	充分な情報発信を行うために、全職員による協力体制のもと、広報活動を維持する。	①全職員の協力により、学校説明会等を開催する。 ②情報発信の量と質を高める。 ③多角的な手段により本校をＰＲする。	①全職員が広報活動に参加できたか。 ②発信した情報の量と内容は適切であったか。 ③多角的な手段により広報活動が展開できたか。				